

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	柴山 昌宣
主な担当科目	オペラ演習Ⅰ④,オペラ演習Ⅱ,オペラ公演実習,オペラ特別演習②,修士オペラ特別演習①,修士オペラ特別演習②,舞台表現演習①,舞台表現演習②,声楽
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	年々増加する留学生。音楽的な基礎力は個々様々であるが、母国語であれば対応出来るスキルは持ち合わせている可能性を念頭に置き対峙しなければならない。日中関係の対立の中でも我が国で学びたいという気持ちにしっかりと応えるための説得力のある対応を続けたい。
2025年の教育に関する自己評価	容易に情報を得られる現代においてのクラシック教育とは何かを常に自問自答した1年であった。実技指導においては繰り返し練習する事によってのみ得られる成果を念頭に置いて指導することが出来た。演習系の指導では役柄が人間になるまで身体に刻み込むことの大切さを伝えることが出来た。
2025年のFD活動に関する自己評価	年間テーマでもある、あたらしいじだいの大学人に求められることを常に念頭に置き、学生の指導にあたることが出来た。特に大学オペラでは初めての取り組みとなるプッチーニ作曲「ボエーム」への挑戦として、学生のオペラへの興味と関心を高いレベルで維持出来るよう細心の注意を払って指導に取り組むことが出来た。
授業改善のために取り入れた研修内容	声楽実技試験、レッスンやオペラ演習の授業運営、展開について、学生の資質にあわせて教員間の連携を取りながら運用する事が出来た。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0526 教員名:柴山 昌宣

1)アンケート結果に対する所見

概ね高い評価を得ることが、学生が授業内容に興味を持ち、専門性の向上に繋がったと感じていることを嬉しく受け止めている。一方で大学院オペラ特別演習では、授業運営や役割分担、留学生とのコミュニケーションに関する要望が寄せられ学修時間をより充実させる必要性を認識した。

2)要望への対応・改善方策

学生が演奏や表現の学修により多くの時間を充てられるよう、授業内での役割分担や進行を見直し、効率化を図る。日本人学生、留学生を問わず円滑に学修出来るよう、情報共有やコミュニケーション方法を工夫し、授業運営の改善に努める。

3)今後の課題

オペラの授業においては演奏技術だけでなく、協働性や実践力を養う事も重要となる。より充実した教育内容となるよう継続的な改善を行っていく。

以 上